あすなろ学院　平成 31 年度 宮城県公立高等学校後期選抜入試　講評　国語

総　評

大問の順番に変更があったが，物語文，論説文，語句知識（漢字），言葉に関する問題，古典，作文が出題される構成は例年通り。前期選抜と同じ構成だったので前期の問題を解いていた生徒にとっては見慣れたものだった。大問の配点について，語句知識・言葉に関する問題の配点が増え，その分物語文・論説文の読み取りが減るという変更があった。

物語文の記述がやや書きにくく，文法の出題に苦戦した生徒がいたと考えても，総じて易しい。作文は初見では身近な具体例を書きにくいテーマだが，昨年度の俳句の解釈と絡める作文よりは易。平均点は 64 点前後と予想される。

難易度・出題単元・解法のポイント

【第一問】語句知識，言葉に関する問題　《易》
〈漢字 16 点，活用形 2 点，ことわざ 2 点，抜き出し 3 点，記号選択 5 点（昨年＋1 点)〉計 28 点

問一①「健やか」の読み，⑥「劇」の書きは冬講で実施した語句暗記大会から，③「掲載」の読みは直前特訓ゼミから的中。例年と異なり，敬語に関する問題がなくなって，動詞の活用形とことわざの知識を問う問題が出た。問(一)活用形の問題は「活用の種類」と混同しないかが肝。同様の間違いの注意喚起は模試解説動画でも繰り返し行っている。

【第二問】物語文　《普》
〈抜き出し 6 点（昨年-3 点)，記号選択 8 点（昨年+1 点)，記述 8 点〉　計 22 点

例年は現代の学生が主人公で生徒にとって身近な題材がとられていたが，今回は明治六年という時代設定であり，富岡製糸場で働く十五歳の少女が主人公であった。しかし，この小説の発売は 2017 年であり，現代の作家によって書かれているので，文体起因の読みにくさはなかったと考えられる。問二の抜き出しは□の前後の言葉を本文で探せばよいという易しい問題で，レギュラー，各種講習会でも取り扱っている。

【第三問】論説文　《易》
〈抜き出し 6 点（昨年+3 点)、記号選択 11 点（昨年-5 点)、記述 5 点〉　計 22 点

配点変更により，抜き出しが 1 問増え，記号選択が 2 問減ったが，全体的な難度は高くない。問一は定番の接続語を問う問題であり，問三（一）「可能性，合理性，信頼性，重要性」の四択の問題はどの語も平易であり，迷いようがなかった。問三（二）は傍線部より随分前の部分からの抜き出しだったため，多少正答率が下がるか。問五の記述は直前特訓ゼミ第一回の論説文でも取り扱った「指定された語を用いて説明する問題」だった。生物と機械について，本文中から「過去」と「現在」という二つの語を用いて説明されている部分を探して整理すれば書ける易しい記述だった。

【第四問】古文　《易》
〈歴史的仮名遣い 2 点，記号選択 3 点（昨年-2 点)，記述 3 点〉　計 8 点

問一の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は，模試でも頻出の問題。レギュラー，各種講習会で取り扱っており，さらに今回は「は」を「わ」に直すだけの基本的な問題だったため，確実に正解できる。問二「涙を落とさずといふことなし」という二重否定の文を訳せたか。問三の記述は本文中の現代語訳を利用して字数におさめるだけで書ける。

【第五問】作文　《普》　計 20 点

直前特訓ゼミ第四回がズバリ的中。ゼミでは「社会に出たときにどんなことを大切にしたいか」，入試では「社会人として生きていくに当たり，どんな力，姿勢が必要だと思うか」について，選択肢を選んで作文する形。ほぼ同じ内容だったため，ゼミで作文を書いて添削を受けていれば，容易に高得点を狙える作文を書けたはず。

【入試に向けての対策方法】

今年度の入試の変更点は大きく 2 点あるが，いずれも語句知識・言葉に関する問題についてであり，問題順が冒頭に来たこと，配点が高くなったことのどちらをとっても，この種類の問題の重要度が増したことを表していると言える。また，記述問題以外の易化の傾向を踏まえれば，他と差をつけるには作文の点数で高得点をとることが重要。このことから，

①漢字練習，漢字テストの機会を増やす
②多くのことわざや慣用句に触れ，意味を調べて使えるようにして語彙を増やす
③作文の型をおさえ，短時間（10 分以内）で誤字脱字等の表記・表現ミスで削られない作文を書き，添削される経験を積む

という三点が今後の入試対策として求められる。漢字や語彙は一朝一夕では身につかないため，適切な指導を継続的に受ける必要があり，作文対策には演習と添削による訓練を重ねることが不可欠である。あすなろ学院では，レギュラー授業のカリキュラムで語句知識を広く長く取り扱って知識の蓄積を図り，毎週作文添削を行うことで入試対策を行う。